

科目名	子ども家庭支援論（保育士必修）				
授業形態	講義	学年	2		
開講時期	2022年度 前期	単位数	2		
担当教員	長谷川 まち子				
内容および計画	<p>急激な社会状況の変化に伴い、児童福祉を考えるには、子どもと家族・地域等を視野に入れる必要があります。これらを学ぶ「子ども家庭支援論」では、次の4つを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭の意義とその機能について理解する。</li> <li>2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。</li> <li>3. 子育て家庭の支援体制について理解する。</li> <li>4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。</li> </ol>				
1	子ども家庭支援とは何か				
2	「子育て」と「子育て」はなぜむずかしくなったか				
3	少子社会と家族				
4	少子化対策から子ども・子育て支援へ				
5	子どもと家族の受容（夫婦と親子）				
6	子どもと家族の受容（きょうだいと祖父母）				
7	「ヒト」のもつ育ちの可能性				
8	ファミリーウォッチング				
9	親と子・家族の関係形成とその発達				
10	私の子ども時代・子どもの生活と遊び再考				
11	子どもの成長と地域の子ども・子育て資源				
12	多様な子ども・家庭支援と地域との連携				
13	多様な子ども・家庭支援と地域の連携（虐待）				
14	諸外国の子ども・家庭支援				
15	子ども家庭支援の現状と課題				
<b>教科書</b>					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	子ども家庭支援論	土谷 みち子	青踏社		2020
	参考書				
<b>成績評価</b>					
	評価方法				割合(%)
	小論文				70
	出席				30
学習到達目標	<p>家庭の意義と役割について把握し、保育士等が担う子ども家庭支援の原理について学ぶ。家庭の多様化・子育て支援における関係機関との連携・そして今後の課題等について、自分なりの考えるための視点を持つ。</p>				

先修条件	
実務経験	
その他	自分が育った地域・家庭を見つめ直し、自分の経験を通しての意見交換や発表を取り入れ講義内容を深めた い。